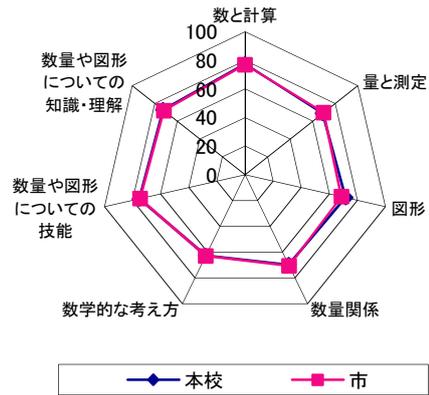


# 宇都宮市立宝木小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	77.4	77.0	70.4
	量と測定	68.9	69.8	68.5
	図形	71.6	68.6	72.4
	数量関係	69.7	70.6	60.4
観点別	数学的な考え方	62.7	63.0	54.8
	数量や図形についての技能	75.1	74.7	67.3
	数量や図形についての知識・理解	72.7	72.0	74.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。  
 (算数では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



## ★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○小数の計算や分数の計算については、市の平均を1ポイント上回っており、約分が1回の分数の除法では、95.5%と正答率が高い。</p> <p>●分数の計算で、図を使って分数の除法の文章問題を表した図を選ぶ問題では、市の正答率よりも2.9ポイント下回っている。36.8%と正答率が低い。</p>	<p>・文章題においても正確に計算し、確実に答えを導き出せるように、ドリル学習を繰り返すなど、習熟を図るようになる。</p> <p>・条件に合う図を選択したりすることに課題が見られたので、様々な文章問題を解くことを通して、学習したことが生かせるようになる。また、自分がどのように問題を解いたのか、図や言葉を使って説明する機会を多く設けるようになる。</p>
量と測定	<p>○体積で底面が横向きになっている三角柱の体積を求める問題の正答率は75.2%と、市の正答率を5.3ポイント上回っている。</p> <p>●速さの単位の関係を理解し、分速を時速に直す問題の正答率は54.1%で、市の正答率は上回っているが、理解が不十分である。</p> <p>●単位量当たりの考え方を使って説明する問題の正答率は、正答率が48.9%と低い。</p>	<p>・体積を求める公式などを確実に覚え、それを適切に使って問題を解くことができるよう、ドリル学習などで習熟を図る。</p> <p>・時速・分速・秒速の関係を理解し、確実に単位換算ができるよう、繰り返し補充プリント等で学習する。また、自分の歩く速さなどを基準にして様々なものの速さをイメージできるようにし、速さの考え方がより身近に感じられるようになる。</p> <p>・単位量あたりの問題では、場面を図に表すなどして、問題の場面をよく理解した上で立式できるようにする。</p>
図形	<p>○線対称な図形の対応する点を見つける問題の正答率は77.4%であるが、市の正答率を10.8ポイント上回っている。</p> <p>○点対称な図形の対応する点を見つける問題の正答率は90.2%と高い。</p> <p>●図を見て五角形の内角の和を求める式を立式する問題の正答率は、市の正答率を3.0ポイント上回っているものの、46.6%と低い。</p> <p>●円の半径から円周を求める式を答える問題の正答率は、39.1%と低い。</p>	<p>・線対称な図形の点を求める問題は、点対称な図形を求める問題に比べて正答率が低かったため、線対称な図形と点対称な図形を混同しないよう、再度練習問題を解くなどして、正確に理解させる。</p> <p>・多角形はいくつかの三角形に分けられることを理解し、それを応用できるよう、類似の問題に多く触れさせ、習熟を図る。</p> <p>・公式をそのまま暗記するだけでなく、その意味を理解させるようにすることで、様々な問題に対応できる力を身に付けられるようになる。</p>
数量関係	<p>○文字を使って2つの数量の関係を式に表す問題の正答率は、市の正答率を0.4ポイント上回っている。</p> <p>●2つの文字を使って表された式で一方の値からもう一方の値を求める問題の正答率は、市の正答率を2.8ポイント下回っている。</p> <p>●比例の関係をXとyを使って式に表す問題の正答率は、市の正答率を6.6ポイント下回っている。</p>	<p>・一方の値からもう一方の値を導き出す問題では、分かっている値を文字と置き換えて計算ができるよう、丁寧に指導していく。</p> <p>・比例の関係を理解した上で、どちらがXでどちらがyかを確実に判断できるようにする。</p> <p>・もとにする量や比べられる量がグラフの中でどれにあたるかを理解し、割合を求める公式にあてはめて答えを導き出せるよう、様々な文章問題を解き、場面に応じて応用できるようにする。</p>